



地域連携だより
Face to Face
第41号

役職等はすべて取材日時点のものです。

- 「地域連携だより Face to Face」は、主に医療職・介護職などのケアを担う多職種向け情報紙です。地域の様々な情報が皆様に共有されることで、顔の見える関係構築や相互理解推進の一助となることを目指します。
- 地域連携だよりは、地域包括ケアシステムの充実に資する皆様の取組みを広く一般にも周知するため、市ホームページで公開しています。

令和3年度 釜石市在宅医療連携拠点事業推進協議会

5月25日、沿岸広域振興局を会場に、令和3年度釜石市在宅医療連携拠点事業推進協議会を開催しました。この協議会は、チームかまいしの前年度の活動報告や今年度の推進方針案を説明し、関係多職種からなる協議員から承認を得ることで、地域の在宅医療・介護、多職種連携、地域包括ケアシステムの構築・推進等について、コンセンサスを形成する三次連携の場としています。

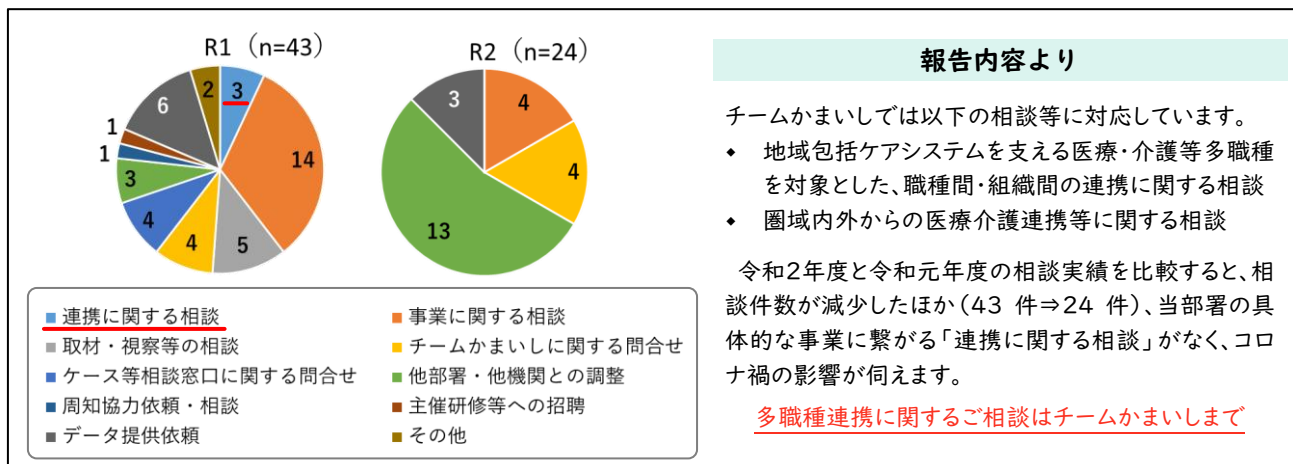
当日は、一部オンラインのハイブリット形式で行い、協議員のほかオブザーバーとして大槌町や釜石保健所、岩手県医療政策室等からもご参加いただきました。また、今年度より新たに釜石医師会から関医師、菊池消防課長、あいぜんの里からは古川施設長が協議員に加わりました。

岩手県医療政策室からは、「岩手県の在宅医療・介護連携に関する現状と方針について」と題し、県内連携拠点の取組みやNDB（レセプト情報・特定健診等情報データベース）から見る在宅医療等の推移についての説明がありました。



議事では、R2年度はコロナ禍により多職種が一堂に参集する機会が少なく事業が少なかったことや、住民への普及啓発の不足に触れ、今年度は職能団体と連携した住民対象の事業を構築中であると説明がありました。

R3年度の推進方針案では、これまでの医療介護連携の取組みに加えて、多様な課題を抱える住民を総合的に支援する体制を整えるための庁内連携や、様々な地域包括ケアの担い手の方々との連携を進めたいとの説明があり、協議員の拍手をもって承認されました。



市内連携

取り組みを進めています

地域包括支援センターとの一次連携

4月6日、釜石市地域包括支援センターとの一次連携を開催しました。地域共生社会の実現に向けた一体的・包括的な取り組みを行うにあたり、現状や課題について意見交換したほか、事業の共催実施など、今後の協力体制について話し合いました。



生活応援センター所長との一次連携

5月19日、各地区生活応援センター所長と初めての一次連携を実施しました。

生活応援センターが所管する「地区センター会議」では、事例検討等を通じて地域課題を把握し、関係機関と情報共有しながら課題解決に向けて地域資源の開発等を行います。今回は地区センター会議の方向性と各地区の実施状況等について情報共有しました。

市保健師との一次連携

5月26日開催の「保健師リーダー会議」において保健師との一次連携を行い、釜石版地域包括ケアシステムの充実に関することや、OKはまゆりネットの利用促進について説明したほか、7月に予定している保健師全体との一次連携等について協議しました。



OKはまゆりネットの利用に関するアンケート結果

令和2年度は、かまいし・おおつち医療情報ネットワーク（通称：OKはまゆりネット）の導入検討10年の節目の年でした。これを記念する取組みの一環として、運営主体であるNPO法人釜石・大槌地域医療連携推進協議会（事務局：釜石医師会）の依頼により、ネットワークの利便性向上等を目的としたアンケート調査を実施しましたので、結果の一部をご紹介します。

- ① 全体の78%が「職場がOKはまゆりネットに加入している」と答えた一方で、9%が「わからない」と回答
- ② 「よく利用・時々利用・まれに利用」のうち、利用している人の71%が「まれに利用」と回答
- ③ よく利用している職種は、病院薬剤師と調剤薬局薬剤師
- ④ 加入している人の55%が「利用していない」と回答
- ⑤ ④の理由の最多は「業務で利用する機会がない」

【調査対象】 歯科医師、薬剤師、介護支援専門員、訪問看護師、訪問リハビリ療法士、地域包括支援センター職員、保健師
※比較的利用が多い病院及び医科診療所は調査の対象外としています。

また、自由記載欄では「コロナ禍において多職種連携を強化する貴重なもの」「情報交換しやすくなればコロナ禍でも非対面で連携できる」という意見があったほか、「コロナ禍で研修会が開催されず残念」「落ち着いたらもっと周知の機会を」等、OKはまゆりネットに期待する複数の声がありました。アンケート結果は、今後の具体的な取組みに反映していく予定です。



6月13日、「これからの地域における薬剤師の役割を考える」シンポジウムがオンライン開催され、特別講演2題のほか、地域における薬業連携の取組みで活躍する3人の先生（釜石薬剤師会・岩手県立中央病院・岩手医科大学附属病院）が発表を行いました。

釜石薬剤師会からは中田副会長が「病院薬剤師と薬局薬剤師の連携を構築した手法～釜石地域の特徴を活かして～」と題し、チームかまいしの機能を活用した取組みについて発表しました。



【医療連携】令和2年度釜石地区地域連携パス検討会

県立釜石病院が主催する「釜石地区地域連携パス検討会」について、令和2年度は3回の検討会が開催され、脳卒中連携パス及び大腿骨骨折連携パスを運用している市内外の病院・診療所等が出席しています。

2月に行われた第3回検討会では、感染症防止対策としてZoomを活用したウェブ会議形式での開催となり、病院等10機関が参加しました。慣れない形式によるトラブルもありましたが、コロナ禍における各機関の現状について報告や意見交換が行われ、面会制限や入退院時の注意点、カンファレンスの方法を協議するなど、意義のある会議となりました。



【自助・互助】自主活動グループ活動中！

「小川町ふれあいクラブ」は、これまで「小川町ふれあいカフェ」という名称でお茶っこサロンなどを実施してきました。今年度からは感染症対策のため活動内容を見直し、毎月第2木曜日に健康講話等に取り組んでいます。

4月8日には、保健師による健康講話が行われ、小川町内会婦人部13人が参加しました。講話にはエーザイ(株)が市に寄贈したフレイル予防の指導箋が利用され、コロナ禍でも委縮せず体を動かすことが大事だと説明がありました。

「中妻地区サロン会」は、以前から自主活動グループとして活動してきましたが、この4月から通所型サービスB（住民主体による介護予防・生活支援サービス）団体としての活動を開始しました。

4月22日には住民12人が集まり、ラジオ体操や100歳体操、健康講話やレクリエーションなどに汗を流しました。合間合間に換気の時間を充分に取るなど、今後の「集いの場」の参考となるような会となりました。



いわて被災者支援センター

センター長の山屋理恵さんにお話を伺いました。

◆ センターの運営体制について教えてください。

岩手県が設置し、「NPO 法人インクルいわて」が運営を受託しています。職員は釜石センターと盛岡サブセンターを合わせて6名で、うち4名が相談支援員です。釜石には2名が常駐しています。

◆ 対象者や受け付ける相談内容などを教えてください。

被災地に住む全ての人を対象としています。また、内陸や県外に住む被災者も対象です。

お金、仕事、家庭のこと等は周囲の人に相談しにくいので、第三者機関である私たちにご相談ください。伴走型支援を行うほか、弁護士やファイナンシャルプランナーの無料相談が利用できます。皆が一人で抱え込まず「助けて」と言える地域にしていきたいです。

◆ 多職種へ一言お願いします。

医療や介護の窓口等で、たとえば相続や借金の話が出るなど、必要性を感じたら当センターを案内していただいて構いません。どんどん声を掛けてもらって、活用してもらえたらと思います。



山屋センター長

木村事業統括

吉田相談支援員



センター外観

開設日 … 令和3年4月27日
住所 … 釜石市大町2-4-7
電話 … 0193-30-1034
URL … <http://sumaiansin.net/>

くらし・しごと相談所

主任相談支援員の近藤和子さんにお話を伺いました。

◆ 相談所の運営体制について教えてください。

市の事業委託により、社会福祉協議会が生活困窮者自立支援法に基づいて平成27年に設置したものです。現在は社会福祉士1名、社会福祉主事2名の3名が常駐しています。

◆ どのような相談が多いですか。

公共料金や税金、子どもの教育費が払えない、多重債務がある、就労困難等、お金や生活に関わる相談が多いです。

個別の支援プランを作成し、必要に応じて市の生活保護係や地域包括支援センター、弁護士など関係機関と連携しながら、安定・自立した生活に向けて支援していきます。

◆ 多職種へ一言お願いします。

複雑な課題を抱えている相談者が多く、関係機関と連携しないと解決できないことが多くあります。病院の医療相談室とも連携していますが、困っている人をサポートするために、さらに様々な職種の方々と連携できればと思っています。



近藤主任相談支援員

新田家計改善支援員

佐々木相談支援員



プライバシーに配慮された相談室

住所 … 釜石市大渡町3-15-26
保健福祉センター2F
電話 … 0193-27-8188

編集後記

- いつもご愛読ありがとうございます。毎回生みの苦しみを味わっていますが、今回もなんとか形になりました。今後ともご協力をお願いいたします。(O)
- 今回はじめて原稿を作成しました。次号も頑張ります!(S)
- 地域にある様々な窓口はすべて「皆で行う支援の入口」。窓口と多職種を繋ぐお手伝いができたらと思います(N)

発行：在宅医療連携拠点チームかまいし

〒026-0025 釜石市大渡町3丁目15番26号
TEL: 0193-55-4536 FAX: 0193-22-6375
【E-mail】 kea@city.kamaishi.iwate.jp
【HP】 <https://www.city.kamaishi.iwate.jp/category/bunya/tiikihoukatukea/zaitakuiryourenkei/>
【FB】 <https://www.facebook.com/teamkamaishi/>